

国内の畜産物の需給動向

牛肉

6年9月の牛肉生産量、前年同月比0.6%増

生産量

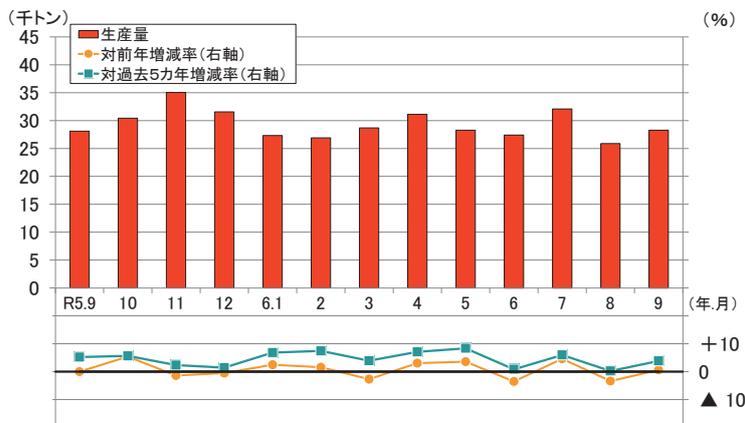
令和6年9月の牛肉生産量^(注1)は、2万8276トン（前年同月比0.6%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。品種別では、和牛は1万4304トン（同7.8%増）と前年同月をかなりの程度上回った一方、交雑種は

7286トン（同5.7%減）とやや、乳用種は6638トン（同2.7%減）とわずかに、いずれも前年同月を下回った。

なお、過去5カ年の9月の平均生産量との比較では、3.8%増とやや上回る結果となった。

（注1）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

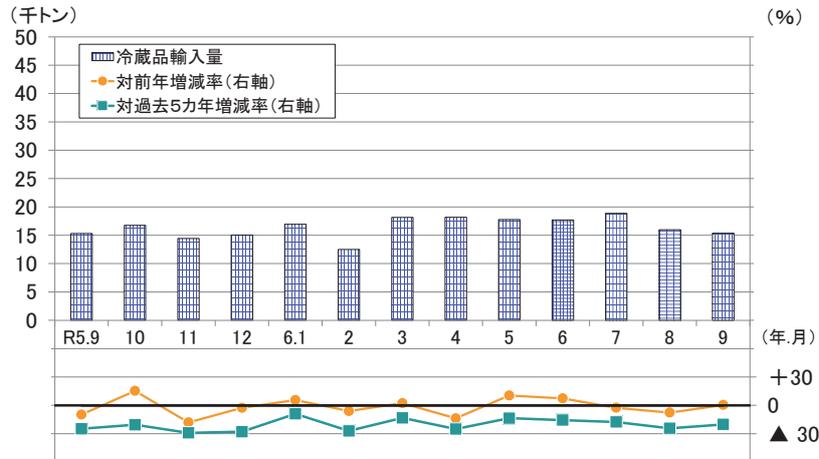
9月の輸入量について、冷蔵品は、国内需要の低迷により低調に推移する中、前年同月の輸入量が少なかった他、主要輸入先である豪州産輸入量が増加したことなどから、1万5380トン（前年同月比0.4%増）と前年同月をわずかに上回った（図2）。冷凍品は、輸入品在庫量が多かったことにより前年同月の輸入量が少なかったことに加え、豪州産の

うち主に加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が増加したことなどから、2万2758トン（同4.9%増）と前年同月をやや上回った（図3）。この結果、輸入量の合計^(注2)では、3万8168トン（同3.1%増）と前年同月をやや上回った。

なお、過去5カ年の9月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は20.3%減、冷凍品は17.4%減と、ともに大幅に下回る結果となった。

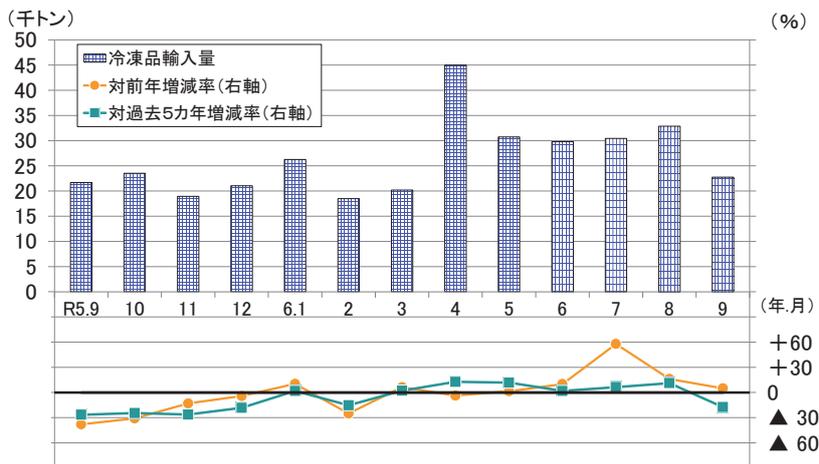
（注2）輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量等

9月の牛肉の家計消費量(全国1人当たり)は167グラム(前年同月比3.8%増)と前年同月をやや上回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の9月の平均消費量との比較では、2.7%減とわずかに下回る結果となった。

9月の外食産業全体の売上高は、2度の三連休と日曜が前年より1日多い曜日周りであったことや、9月末時点で昨年1年間を

上回る累計訪日外客数による外食需要の押し上げの他、冷たいドリンク類や季節定番メニューの売れ行きが堅調であったことから、前年同月比8.2%増と前年同月をかなりの程度上回った。(一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」)。このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、月見シーズンの定番メニューが好評で、同4.1%増と前年同月をやや上回った。また、牛丼店を含むファストフードの和風は、

季節メニューと割引キャンペーンが好調で、同11.0%増と前年同月をかなり大きく上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、昨年好評であったキャンペーンの展開などにより、同7.2%増と前年同月をかなりの程度上回った。

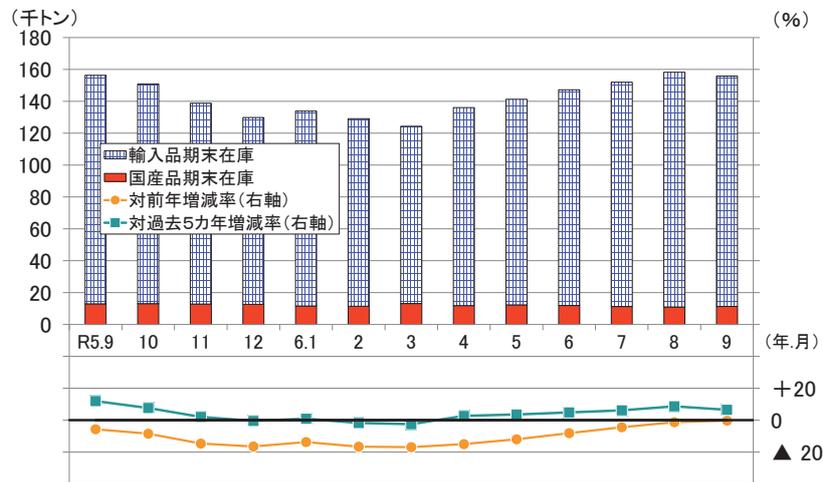
推定期末在庫・推定出回り量

9月の推定期末在庫は、15万5848トン（前年同月比0.3%減）と前年同月並みと

なった（図4）。このうち、輸入品は14万4550トン（同0.8%増）と前年同月をわずかに上回った。

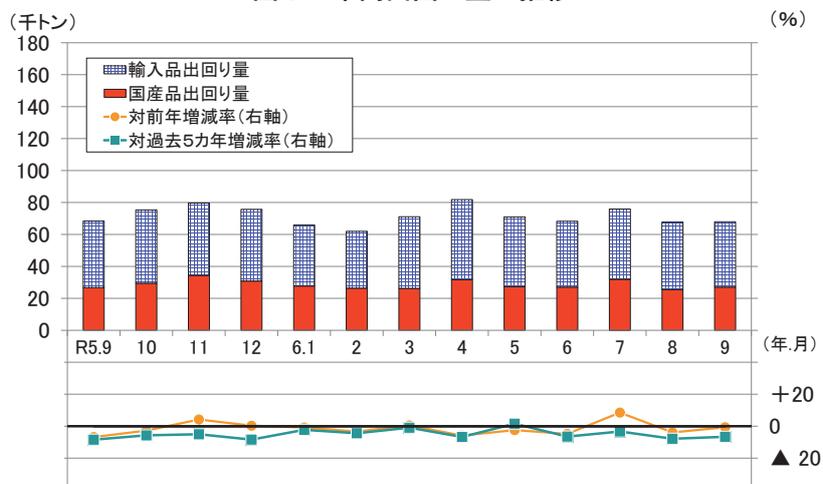
推定出回り量は、6万7929トン（同0.7%減）と前年同月をわずかに下回った（図5）。このうち、輸入品は4万906トン（同1.8%減）と前年同月をわずかに下回った一方、国産品は2万7023トン（同1.1%増）と前年同月をわずかに上回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 丸吉 裕子)

豚 肉

6年9月の豚肉生産量、前年同月比1.0%減

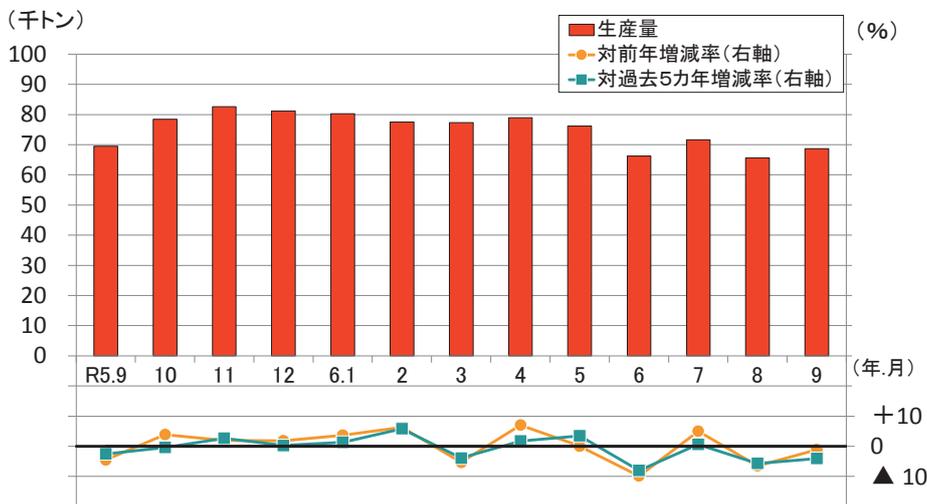
生産量

令和6年9月の豚肉生産量は、6万8773トン（前年同月比1.0%減）と前年同月を

わずかに下回った（図1）。

なお、過去5カ年の9月の平均生産量との比較でも、4.0%減とやや下回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

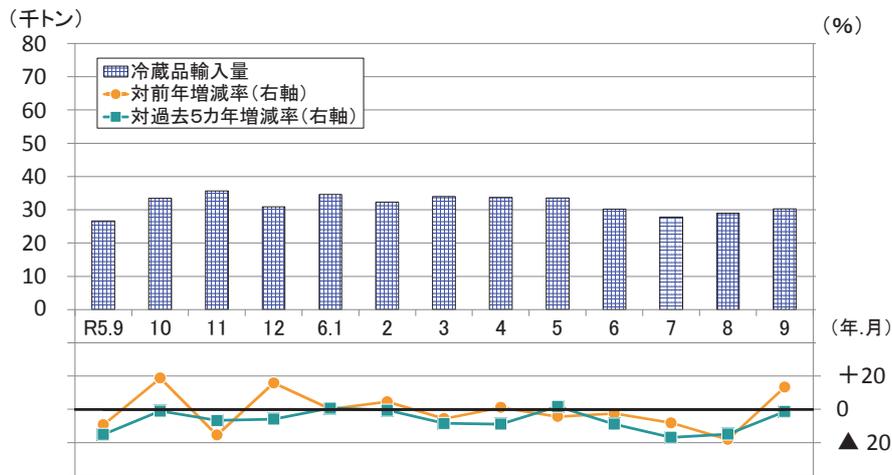
9月の輸入量について、冷蔵品は、為替や現地相場高の影響などにより低調に推移する中、前年同月のカナダ産輸入量が少なかったことなどから、3万286トン（前年同月比13.5%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図2）。冷凍品は、価格優位性のあるブラジル産輸入量の増加の他、北米産およびEU産輸入量も増加したことなどから、4万

8372トン（同38.1%増）と前年同月を大幅に上回った（図3）。この結果、輸入量の合計^(注)でも、7万8666トン（同27.4%増）と前年同月を大幅に上回った。

なお、過去5カ年の9月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は1.3%減とわずかに下回った一方、冷凍品は21.8%増と大幅に上回る結果となった。

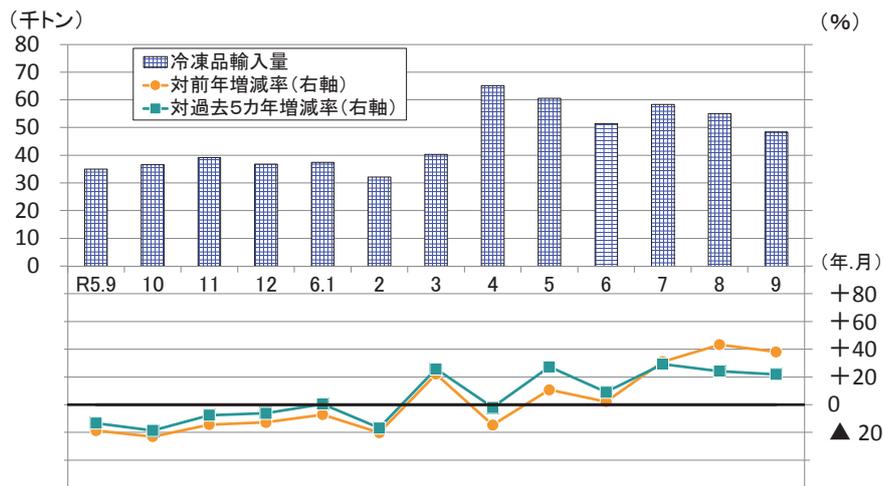
(注) 輸入量の合計は、くず肉を含む。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量

9月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）は、604グラム（前年同月比2.0%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の9月の平均消費量との比較でも、1.4%減とわずかに下回る結果となった。

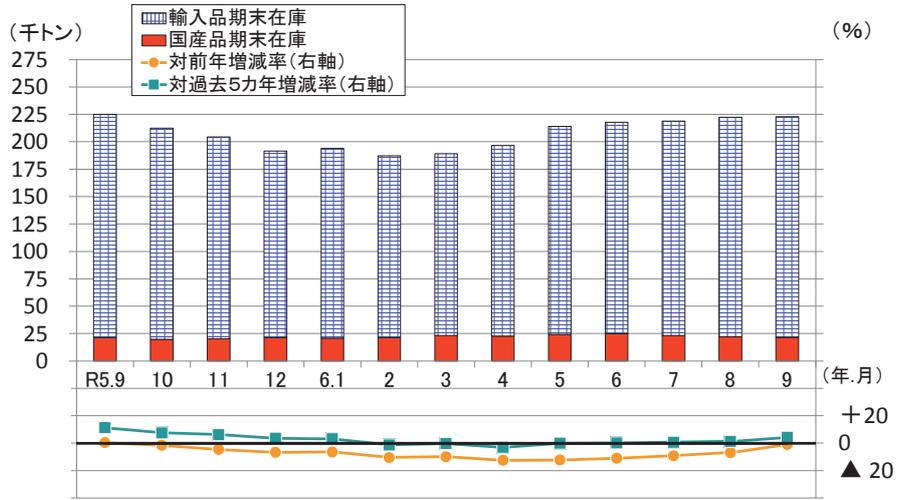
推定期末在庫・推定出回り量

9月の推定期末在庫は、22万2777トン

（前年同月比1.0%減）と前年同月をわずかに下回った（図4）。このうち、輸入品は、20万1197トン（同1.1%減）と前年同月をわずかに下回った。

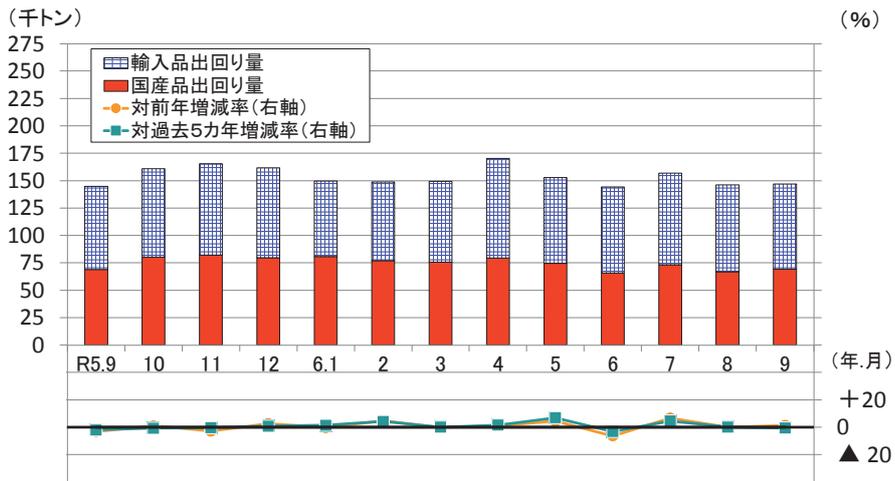
推定出回り量は、14万6978トン（同1.4%増）と前年同月をわずかに上回った（図5）。このうち、国産品は6万9219トン（同0.4%増）、輸入品は7万7759トン（同2.4%増）と、ともに前年同月をわずかに上回った。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 小森 香穂)

鶏肉

6年9月の鶏肉生産量、前年同月比0.1%増

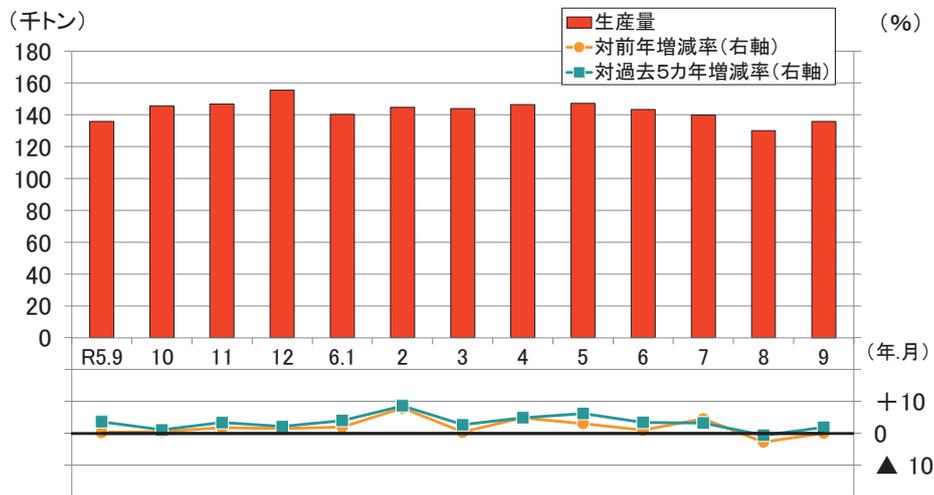
生産量

令和6年9月の鶏肉生産量は、13万5916トン（前年同月比0.1%増）と前年同月並み

となった（図1）。

なお、過去5カ年の9月の平均生産量との比較では、1.9%増とわずかに上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注1：骨付き肉ベース。
注2：成鶏肉を含む。

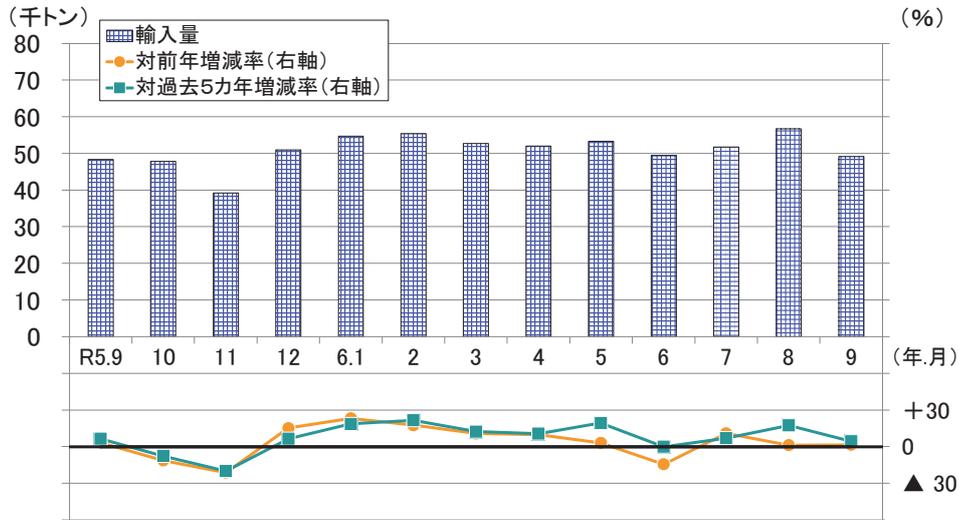
輸入量

9月の輸入量は、国内の節約志向を背景とした堅調な鶏肉需要により、ブラジル産輸入量が増加したことから、4万9125トン（前年

同月比1.6%増）と前年同月をわずかに上回った（図2）。

なお、過去5カ年の9月の平均輸入量との比較でも、4.3%増とやや上回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

家計消費量

9月の鶏肉の家計消費量(全国1人あたり)は、530グラム(前年同月比7.5%増)と前年同月をかなりの程度上回った(総務省「家計調査」)。

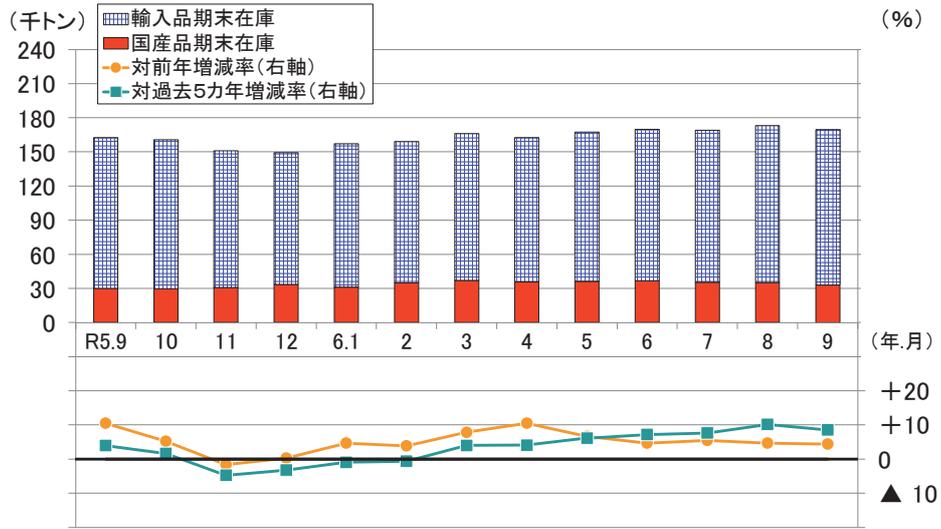
なお、過去5カ年の9月の平均消費量との比較でも、7.6%増とかなりの程度上回る結果となった。

推定期末在庫・推定出回り量

9月の推定期末在庫は、16万9672トン(前年同月比4.4%増)と前年同月をやや上回った(図3)。このうち、輸入品は13万6518トン(同3.0%増)と前年同月をやや上回った。

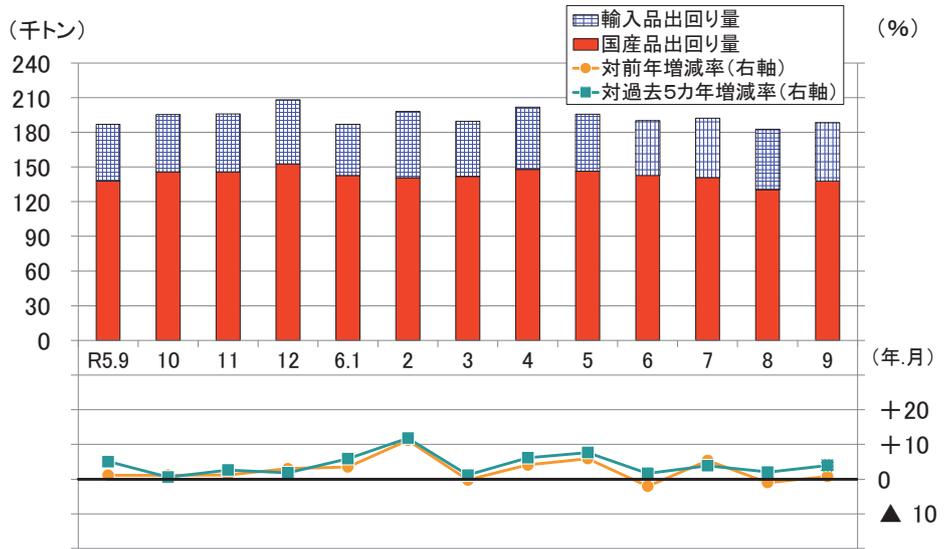
推定出回り量は、18万8404トン(同0.8%増)と前年同月をわずかに上回った(図4)。このうち、国産品は13万7856トン(同0.1%増)と前年同月並み、輸入品は5万548トン(同2.7%増)と前年同月をわずかに上回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 大西 未来)

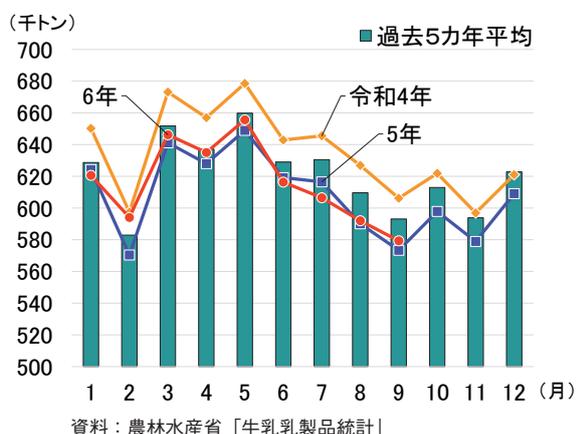
牛乳・乳製品

9月の全国の生乳生産量、2カ月連続で前年同月を上回る

北海道の生乳生産量、前年同月比3.5%増

令和6年9月の生乳生産量は、57万9317トン（前年同月比1.0%増）と2カ月連続で上回った（図1）。地域別では、北海道が34万4128トン（同3.5%増）、都府県が23万5189トン（同2.4%減）となった。北海道では、分娩のズレによる夏産み頭数の増加や、比較的涼しい天候が増加につながった前月に続き、前年同月を上回った。一方、都府県では酷暑の影響が続き、3カ月連続での減少となった。

図1 生乳生産量の推移



9月の生乳処理量を見ても、牛乳等向けは33万1326トン（同1.2%減）と前年同月を7カ月連続で下回ったが、このうち、業務用向けについては2万5320トン（同3.9%増）と4カ月連続で上回った。

一方、乳製品向けは24万4287トン（同4.3%増）と2カ月連続で上回った。品目別

に見ると、クリーム向けは5万8662トン（同0.9%減）と前年同月を4カ月ぶりに下回り、チーズ向けは3万23トン（同11.1%減）とかなり大きく下回った。一方、脱脂粉乳・バター等向けは、11万684トン（同20.4%増）と前年同月を大幅に上回った（農畜産業振興機構「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

全国の牛乳生産量、前年同月並み

9月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、27万53キロリットル（前年同月比0.1%増）と前年同月並みだった。成分調整牛乳は前年割れが継続しており、1万8209キロリットル（同11.7%減）と前年同月をかなり大きく下回った。加工乳は増加傾向で推移していたが、1万1837キロリットル（同0.1%減）と前年同月並みにとどまった。

9月のバター在庫量、前年同月を上回る

9月のバターの生産量は、4162トン（前年同月比26.3%増）と前年を大幅に上回った（図2）。一方、出回り量は6289トン（同8.9%減）と前年同月をかなりの程度下回った（農畜産業振興機構調べ）。その結果、9月末の在庫量は2万6040トン（同0.1%増）と、令和4年4月以来の前年同月比増となった（図3）。

図2 バターの生産量の推移

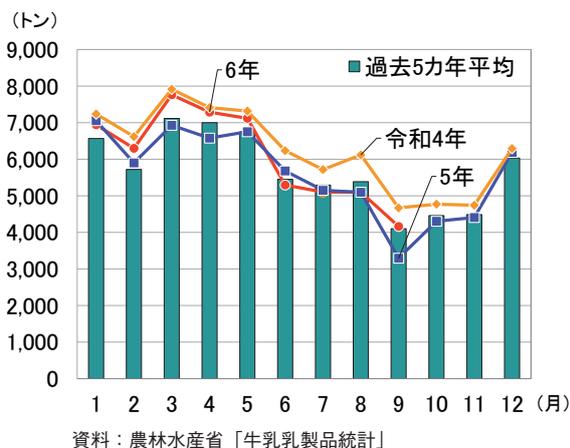


図4 脱脂粉乳の生産量の推移

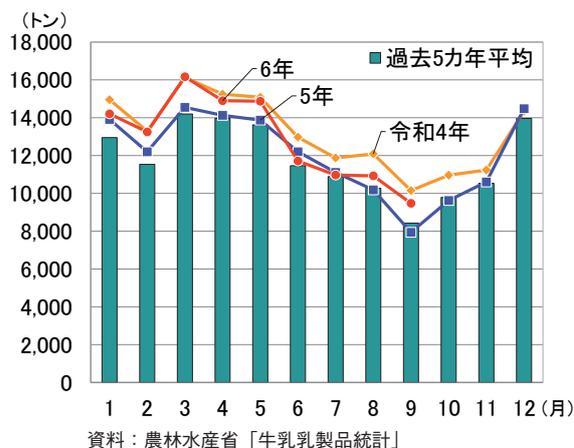


図3 バターの在庫量の推移

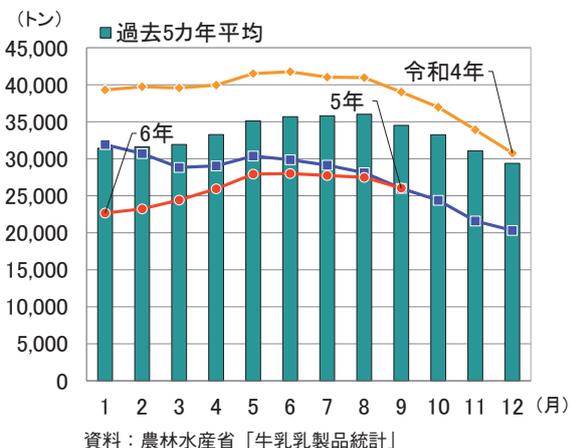
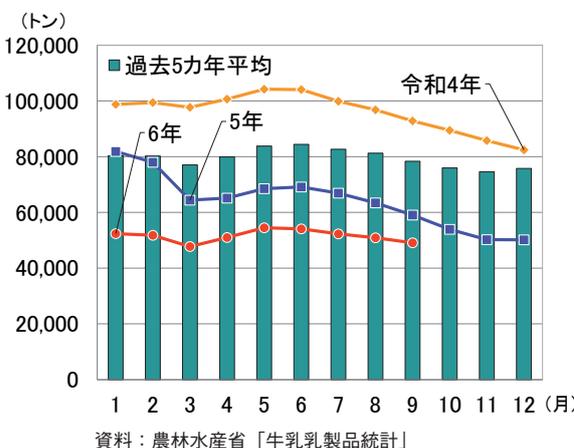


図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



9月の脱脂粉乳生産量、2カ月連続で増加

9月の脱脂粉乳の生産量は、生乳生産量が増加する一方で、飲用等向けが減少したことなどを受け、9477トン（前年同月比19.3%増）と2カ月連続で前年同月を大幅に上回った（図4）。一方、出回り量は1万1370トン（同10.5%減）と3カ月連続で下回った（農畜産業振興機構調べ）。在庫量は、在庫低減対策の効果もあり、令和4年10月以降前年同月減で推移しており、9月末は4万9088トン（同16.4%減）と、6カ月ぶりに5万トンを下回った（図5）。

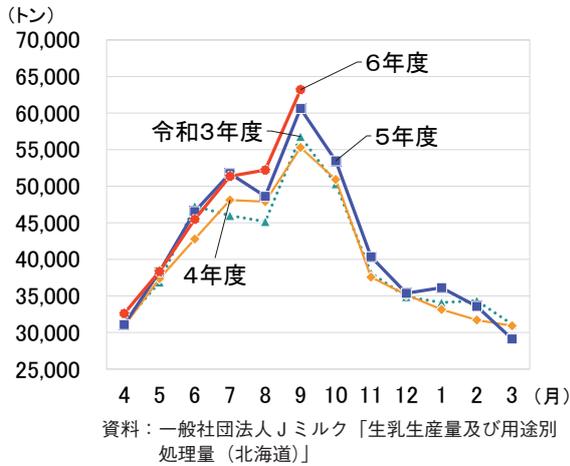
北海道の生乳移出量、前年同月比4.2%増

9月は、例年、学校給食が再開するなど需要が増加する一方で、夏場の暑さなどにより都府県の生乳生産量が落ち込むことから、生乳の道外移出量が最も多くなる。令和6年度における9月の生乳の道外移出量は6万3202トン（前年同月比4.2%増）と2年連続で前年同月を上回った（図6）。

なお、道内の同月の牛乳等向け処理量は4万8223トン（同0.2%減）と前年同月並みとなった。一方で、乳製品向け処理量は23万744トン（同4.3%増）と前年同月をやや上回っている。

図6 北海道生乳移出量の推移

(酪農乳業部 山下 侑真)



鶏卵

6年10月の鶏卵卸売価格、前年同月比2.8%安

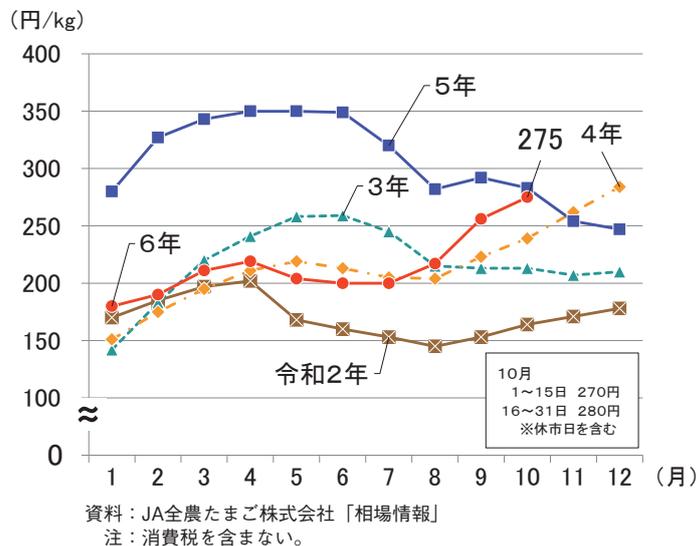
卸売価格

令和6年10月の鶏卵卸売価格（東京、M玉基準値）は、1キログラム当たり275円（前年同月差8円安、前年同月比2.8%安）と、前月から同19円上昇したものの、高値で推移した前年同月をわずかに下回った（図）。

同価格の日ごとの推移を見ると、上昇傾向が継続しており、月初の同270円から16日には同280円に上昇し、月間の上昇幅は同10円となった。なお、過去5カ年の10月の平均卸売価格との比較では、24.4%高と大幅に上回る結果となった。

供給面を見ると、生産量は、朝晩の気温の

図 鶏卵卸売価格（東京、M玉）の推移



低下により産卵率および個卵重に回復の傾向が見られるものの、残暑による減産の影響が残っている状況にある。一方、需要面を見ると、外食向けの月見メニュー需要の他、加工向けのおでん用需要などが堅調に推移している。

家計消費量

9月の鶏卵の家計消費量(全国1人当たり)は、885グラム(前年同月比4.2%増)と前年

同月をやや上回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の9月の平均消費量との比較でも、0.4%増とわずかに上回る結果となった。

(畜産振興部 大西 未来)

令和6年度上半期の食肉需給

令和6年度上半期(4~9月)の食肉の畜種別の需給動向は以下の通り。

1 牛 肉

生産量、和牛は増加するも乳用種・交雑種は減少

上半期の牛肉生産量は、17万3061トン(前年同期比0.9%増)と前年同期をわずかに上回った(図1)。品種別に見ると、和牛は8万7167トン(同6.3%増)と前年同期をかなりの程度上回った一方、乳用種は3万9342トン(同2.4%減)とわずかに、交雑種は4万5415トン(同3.7%減)とやや、

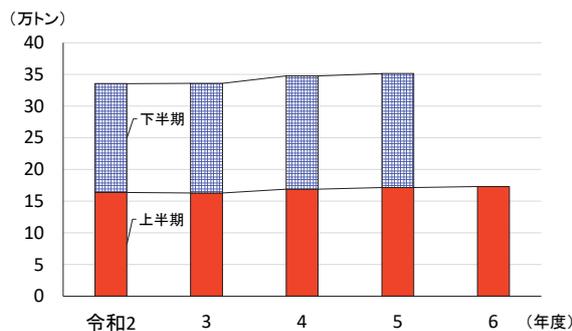
いずれも前年同期を下回った。和牛については、繁殖雌牛の頭数が増加傾向であったことに加え、乳用牛への和牛受精卵移植技術の活用などによる増加がみられた。

輸入量、冷蔵品は減少するも冷凍品は増加

上半期の牛肉輸入量は、冷蔵品は減少した一方、冷凍品は増加したことから、29万5696トン^(注1)(前年同期比5.8%増)と前年同期をやや上回った(図2)。

冷蔵品は、国内需要が低迷する中、為替の影響や北米産輸入量が現地相場の高騰により減少したことなどから、10万3869トン(同1.7%減)と前年同期をわずかに下回った。国別に見ると、全体の48%を占めた豪州産は4万9600トン(同4.5%増)と前年同期をやや上回った一方、同44%を占めた米国産は4万5317トン(同9.6%減)と前年同期をかなりの程度下回った。

図1 牛肉生産量の推移

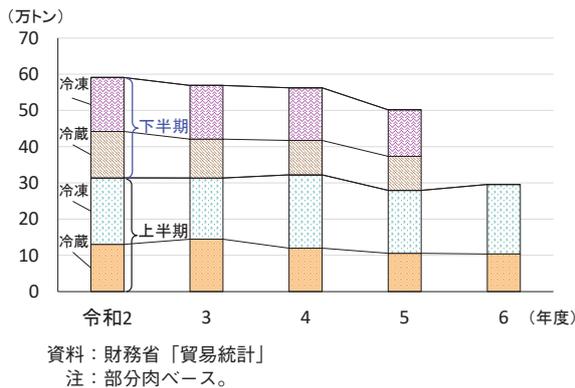


資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

冷凍品は、輸入品在庫量が多かったことにより前年同期の輸入量が少なかったことに加え、豪州産を中心に主に加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が増加したことなどから、19万1679トン（同10.5%増）と前年同期をかなりの程度上回った。国別に見ると、全体の48%を占めた豪州産は9万1755トン（同28.7%増）と前年同期を大幅に上回った一方、同28%を占めた米国産は5万3943トン（同6.7%減）と前年同期をかなりの程度下回った。

（注1）輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 牛肉輸入量の推移

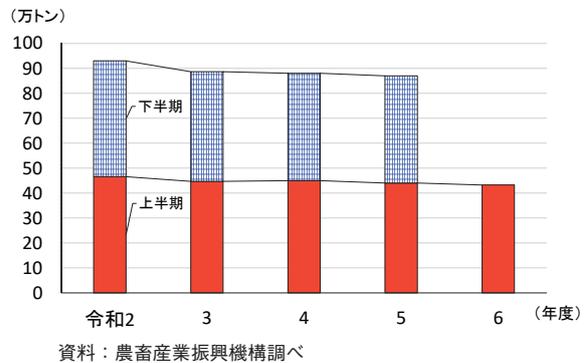


推定出回り量、国産品は増加するも輸入品は減少

上半期の牛肉推定出回り量は、物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まりや円安などの影響から、43万2709トン（前年同期比1.7%減）と前年同期をわずかに下回った（図3）。このうち、国産品は17万334トン（同1.9%増）と前年同期をわずかに上回った一方、輸入品は26万2375トン（同3.9%減）と前年同期をやや下回った。

また、上半期の牛肉推定期末在庫は15万5848トン（同0.3%減）と前年同期並みとなった。このうち、輸入品は14万4550トン（同0.8%増）と前年同期をわずかに上回った一方、国産品は1万1298トン（同12.4%減）と前年同期をかなり大きく下回った。

図3 牛肉推定出回り量の推移



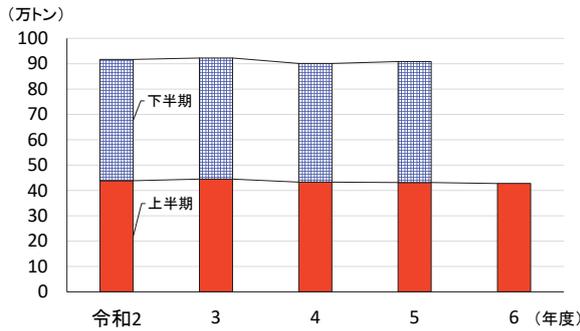
2 豚 肉

生産量、わずかに減少

上半期の豚肉生産量は、猛暑の影響などに

よりと畜頭数が減少したことなどから、42万7573トン（前年同期比0.9%減）と前年同期をわずかに下回った（図4）。

図4 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

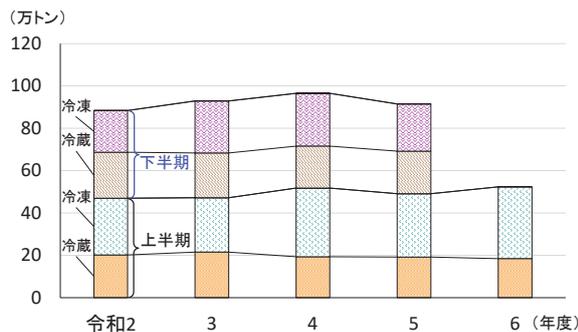
輸入量、冷蔵品は減少するも冷凍品は増加

上半期の豚肉輸入量は、冷蔵品は減少した一方、冷凍品は増加したことから、52万3426トン^(注2)(前年同期比6.6%増)と前年同期をかなりの程度上回った(図5)。

冷蔵品は、為替の影響や米国産の現地相場の高騰により減少したことなどから、18万4593トン(同3.7%減)と前年同期をやや下回った。国別に見ると、全体の51%を占めるカナダ産は9万3177トン(同9.2%増)と前年同期をかなりの程度上回った一方、同38%を占める米国産は7万136トン(同19.7%減)と前年同期を大幅に下回った。

冷凍品は、メキシコ産を除く主要輸入先国からの輸入が堅調であったこと、価格優位性のあるブラジル産輸入量が増加したこと

図5 豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

などから、33万8760トン(同13.2%増)と前年同期をかなり大きく上回った。国別に見ると、全体の29%を占めるスペイン産は9万8053トン(同0.3%減)と前年同期と同水準、同15%を占める米国産は4万9078トン(同50.4%増)、同12%を占めるブラジル産は3万8904トン(同110.0%増)と、ともに前年同期を大幅に上回った。

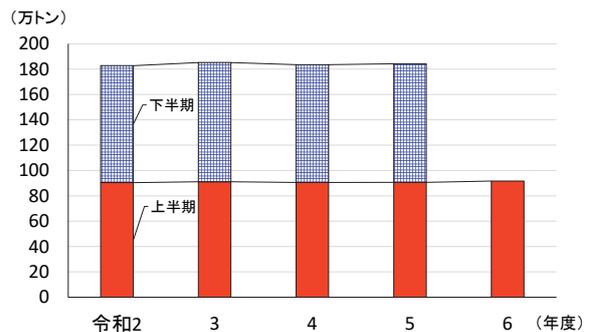
(注2) 輸入量の合計は、くず肉を含む。

推定出回り量、国産品は同水準も輸入品は増加

上半期の豚肉推定出回り量は、堅調な需要により、91万6872トン(前年同期比1.2%増)と前年同期をわずかに上回った(図6)。このうち、国産品は42万8524トン(同0.2%減)と前年同期と同水準、輸入品は48万8348トン(同2.4%増)と前年同期をわずかに上回った。

また、上半期の豚肉推定期末在庫は22万2777トン(同1.0%減)と前年同期をわずかに下回った。このうち、輸入品は20万1197トン(同1.1%減)と前年同期をわずかに下回った一方、国産品は2万1580トン(同0.6%増)と前年同期をわずかに上回った。

図6 豚肉推定出回り量の推移



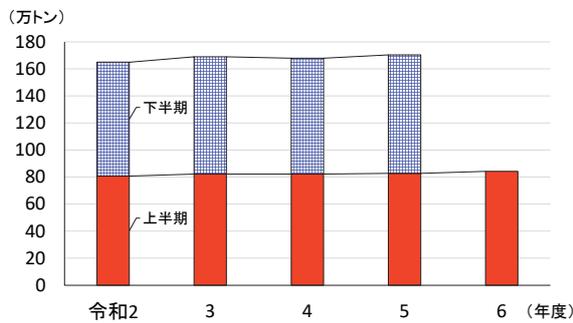
資料：農畜産業振興機構調べ

3 鶏 肉

生産量、わずかに増加

上半期の鶏肉生産量は、消費者の健康志向の高まりなどにより、84万2415トン（前年同期比1.8%増）と前年同期をわずかに上回った（図7）。

図7 鶏肉生産量の推移

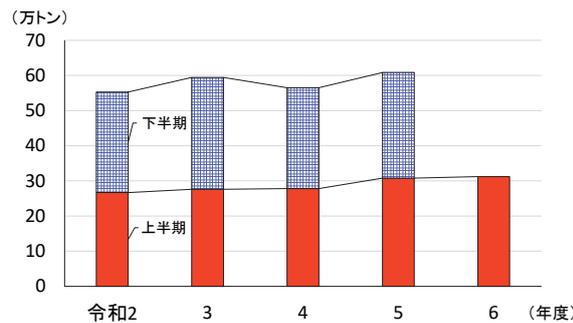


資料：農畜産業振興機構調べ
注：骨付き肉ベース。成鶏肉を含む。

輸入量、わずかに増加

上半期の鶏肉輸入量は、国内の節約志向などを背景とした堅調な鶏肉需要により、ブラジル産、タイ産ともに輸入量が増加し、31万2239トン（前年同期比1.4%増）と前年同期をわずかに上回った（図8）。国別に見ると、全体の71%を占めるブラジル産は22

図8 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

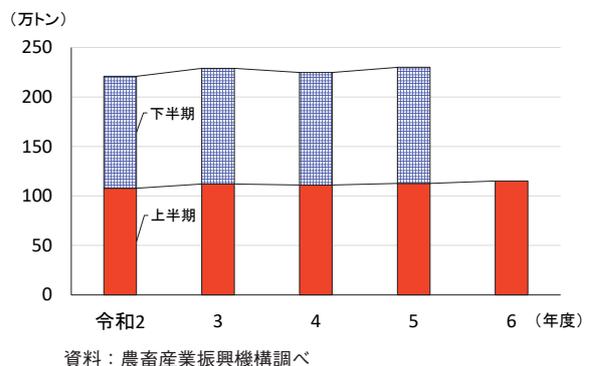
万622トン（同0.7%増）とわずかに、同28%を占めるタイ産は8万6734トン（同5.6%増）とやや、いずれも前年同期を上回った。

推定出回り量、国産品、輸入品いずれも増加

上半期の鶏肉推定出回り量は、需要が堅調に推移していることから、全体では115万960トン（前年同期比2.2%増）と前年同期をわずかに上回った（図9）。このうち、国産品は84万6129トン（同2.6%増）、輸入品は30万4831トン（同0.9%増）と、ともに前年同期をわずかに上回った。

上半期の鶏肉推定期末在庫は16万9672トン（同4.4%増）と前年同期をやや上回った。このうち、輸入品は13万6518トン（同3.0%増）とやや、国産品は3万3154トン（同10.3%増）とかなりの程度、いずれも前年同期を上回った。

図9 鶏肉推定出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

（畜産振興部 大西 未来）